

印刷とITの有効利用を考えるアイデア情報誌

No.32

APRIL 2004

アイデアウイルス

Idea Virus

IDEA



IRUS

Contents

商売繁盛の秘訣

外資圧力が強まる中での中小小売業の生き残り策:
“多様化”と“上質志向”の
都市型スーパーがヒント

p.1

実力店の突撃取材

携帯メールによるタイムセール配信で
小商圏顧客をがっちりつかむ食品スーパー
ハッピーテラダ(京都府)

p.3

繁盛店の裏側

静かなブームとして広がる食育:
長期的な繁盛につながる新しい取り組み

p.5

主婦マーケティング

売場と主婦の恋愛関係《シリーズ第二回》
消費現場の95%に主婦がいる!
狂牛病・雪印・虚偽表示...もうどこも
信用できない

p.7

売場と主婦の恋愛関係

主婦マーケティングとは市場(女)と企業(男)のロマンである。このコーナーでは、毎回当社が集めた主婦データをもとに様々な消費者のシーンや生活者のホンネを読み取り、売場と主婦の恋愛関係を探る。

《シリーズ 第二回》

消費現場の95%に主婦がいる！
狂牛病・雪印・虚偽表示…もうどこも信用できない

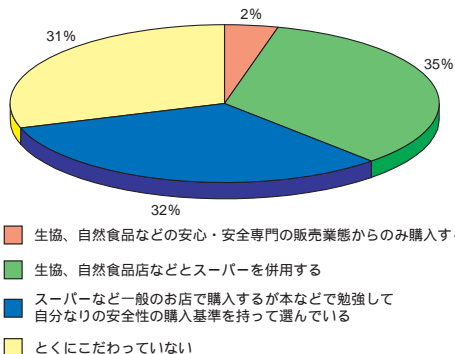
主婦データ

物件名:食品の安全性(スーパー・お店選び編)
サンプル数:645名
実施期間:2002.08.13~2002.08.22

約7割の主婦が「安心・安全性」を重視してスーパー(購入先)を選ぶ

全国の主婦に「食品の安全性(スーパー・お店選び)に関するアンケート」を実施した。「あなたは食品を購入するとき『安心・安全性』を重視してお店(購入先)を選んだり、商品を選んだりしていますか?」との問いに、67%の主婦が「はい」と答えた。さらに「現在利用しているお店(購入先)で購入している食品は『安心・安全性』だと信用できますか?」と聞くと、「信用できる」「おおむね信用できる」と答えた主婦は55%。「少々不信」「信用できない」「わからない」と答えた主婦は45%だった。店内で買い物カゴをぶら下げたお客のうち、ざっくり言って半数近くが不信感を抱きながらうろろしているということだ。

うかうか信用できない時代。主婦たちはどこで買い物をしているのか?



狂牛病、雪印はもちろん、それ以降も続く数々の不祥事。主婦たちは怒りを越えて自ら何とかしなければならぬと動き出した。生協、自然食品店などとスーパーを併用する主婦の割合も確実に増え、スーパーなど一般のお店で購入する際も、自ら食品の安全性についての知識を身につけて商品を選び始めた。

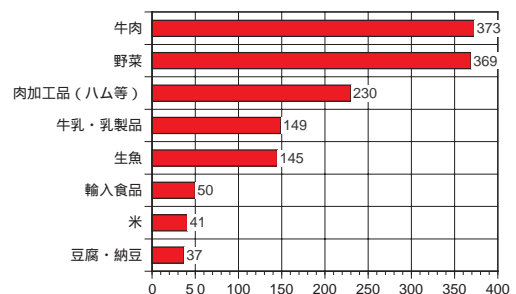
こうした主婦たちの自衛策とも言える新しい動きがある一方で、いちばん悲しいことは、店やメーカーの男たちの意識が旧態依然で変わらないことだ。この温度差はどこから来るのだろうか。それは男たちが

「料理や食品の買い物は主婦の仕事」と決めつけ、その現場を知らずに無責任になっているからに他ならない。夫や子供、同居の両親など家族の健康を管理する立場になって、毎月の家計をやりくりしながら、毎日の食事のために安全性が高く、しかも経済的な食品を探してみれば、その苦勞がよくわかる。

たとえば、高齢の母親がいれば塩分を控えたものを探し、子供のアトピーやアレルギーに悩んでいれば、農薬や添加物はもちろん、小麦やゴマや卵など原材料だってすべてが知りたくなる。毎月の決まった食費でやりくりすることを考えれば、こだわりの高級品が欲しいのではない、家族に安心して食べさせられる当たり前の食品が欲しいだけなのだ。

何を手がかりに店や購入先を信用しろというのか、商品パッケージや食品表示で一体何がわかるというのか……。選びようもないのが現実だ。

食品の中でも、とくに主婦の安心・安全の関心が高いものは何か?



安心・安全性に関して主婦の関心が高い食材(上のグラフの数字はポイント数を表す)

《主婦の自由記入から。関心が高い理由》

* 牛肉

・狂牛病や企業の偽造工作などで。

・いろいろなニュースを見て狂牛病が怖い。

* 野菜

・残留農薬が不安

・サラダのように調理法によっては、ナマのまま口にす

- ることがあるので、気になる。
- ・外国産が多く出回ってるから。
 - ・ポストハーベストの心配だから。
- * 肉加工品(ハム等)
- ・日本ハムの事件以来心配。
 - ・よく子どもに食べさせるウインナーなどはかなり添加物が多いのでなるべく少ないものを選ぶ。
 - ・加工されているので何が入ってるかわからない。
 - ・製造工程が想像つかないので。
- * 牛乳・乳製品
- ・雪印事件以来、大手のものを信用できなくなった。
 - ・雪印の牛乳のニュースで期限切れの牛乳が再利用されることを始めて知ったので。
 - ・自分がアレルギーっばいから。
- * 生魚
- ・テレビで産地のごまかしがされていると報道があったから気になる。
 - ・鮮度や調理室の衛生度が気になるので。
- * 輸入食品
- ・中国産のうなぎはキモチワルイ。
 - ・冷凍野菜の農薬問題。
 - ・日本で使用許可されていない農薬などでも使用されているものが多々あると感じます。食品添加物などでもその事は言えると感じます。
- * 米
- ・毎日食べるものだから安全でないと相対的に身体への蓄積が心配なるべく減農薬のものを食べる。
 - ・産地じゃなくてブランドの偽装をしてそう。
 - ・生産状況の詳細をネットで公開しているところで購入している。
- * 豆腐・納豆
- ・農薬・遺伝子組み替えが心配。
 - ・くさりやすいから。

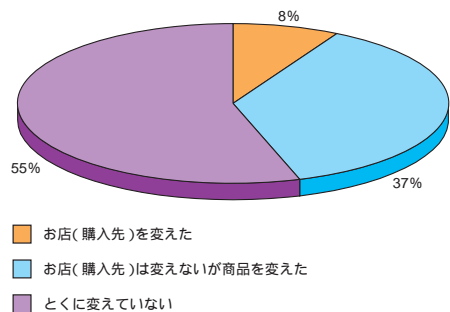
スーパーでの食品の「安心・安全性」の取り組みに関するリクエスト

《主婦の自由回答から》

- ・安全性にこだわったものとそうでないものを両極端に並べたらいいのと思う、中途半端な安物ばかりで主婦のニーズには答えてないと思う。安物ばかり買いたい主婦もいるし、そうでない主婦もいる。(千葉県・38歳)
- ・魚売場でパックされていなくて並んでいるものが、ホコリや雑菌が付かないか心配なので、その対策を考えて欲しい。(東京都・36歳)
- ・働いている人にもきちんと教育してほしい。せつ

- ・かくきちんと安全対策などをしていても、お店の人が理解していないと、聞いたこちらも理解できないから。(千葉県・28歳)
- ・バックヤードまでは見えないので、きれいにして欲しい。見学とかできたり、利用者のモニターで店内を調査(?)できたりするともいいかも。(山口県・32歳)
- ・スーパー業界で、統一の安全基準を設けてくれれば、消費者としては、どこのスーパーでも、安心して利用できるような気がします。(埼玉県・39歳)
- ・以前は小売りの店で何でも気兼ねなく相談できて、ものも地元のものも多く買やすかったが、現在スーパーしかなく独占状態で、イヤだと思ってもそれしか買うものがない。(島根県・39歳)

お店(購入先)を変える! 商品(メーカー)を変える!



主婦たちは本を読んだりネットで検索したりして、食品の安全性について勉強し、またどうしたら安心な食品が手に入るかを模索している。「あなたは『安心・安全』を理由にお店や購入先を変えましたか?」との問いに、「お店(購入先)を変えた:8%」「お店(購入先)は変えないが、商品を変えた:37%」との結果が出ている。

「安心・安全」を理由にこれだけたくさんの買い物(市場)が動いている実感が店やメーカーにあるだろうか? 主婦に信用される店や商品とはどんなものか。店もメーカーも企業姿勢が今一番問われている。

《まとめ》

主婦は自ら食品の安全性に関する知識を身につけ商品を選び始めている。

店やメーカーには、安心・安全に対する企業の姿勢や取り組み方が今もっとも問われている。

香川 いくみ

(株)CBTカプトブレントラスト代表取締役社長

参照サイト ・データ引用:主婦データワークショップ
<http://echo-brk.ne.jp/workshop/>
 ・(株)CBTカプトブレントラスト
<http://www.cbpt.co.jp/>